




愛着形成につまずきがあると

- 無反応・無関心・警戒・敏感・興奮・
過剰で無差別な接近・乱暴・攻撃・
(ことば・学力)

著しく不適切な関わり方



対人行動の問題



虐待が子どもに及ぼす影響

- 1 生命の危険
- 2 知的発育に影響する危険
- 3 精神的障害の危険

愛着形成→人への不信感→精神的発達の妨げ

- 4 繰り返し虐待を受ける危険
- 5 他者や自分を傷つける危険

どれもがその子(人)に多大な影響を及ぼす



気になる関わり方

- 育児疲れ
子どもに対する否定的な発言
育児に対する疲労感の発言
 - 低い養育能力
自分の子どものことをあまり知らない
 - 虐待
言葉がきつい・あざける・ばかにする・乱暴に扱う
叩く・引きずる、蹴飛ばす・苦々しい表情・
他人事のような態度
- 大人の言い分 → しつけ



ニーズを捉えたら

- 地域にあるさまざまな機関と一緒に支援を行います。

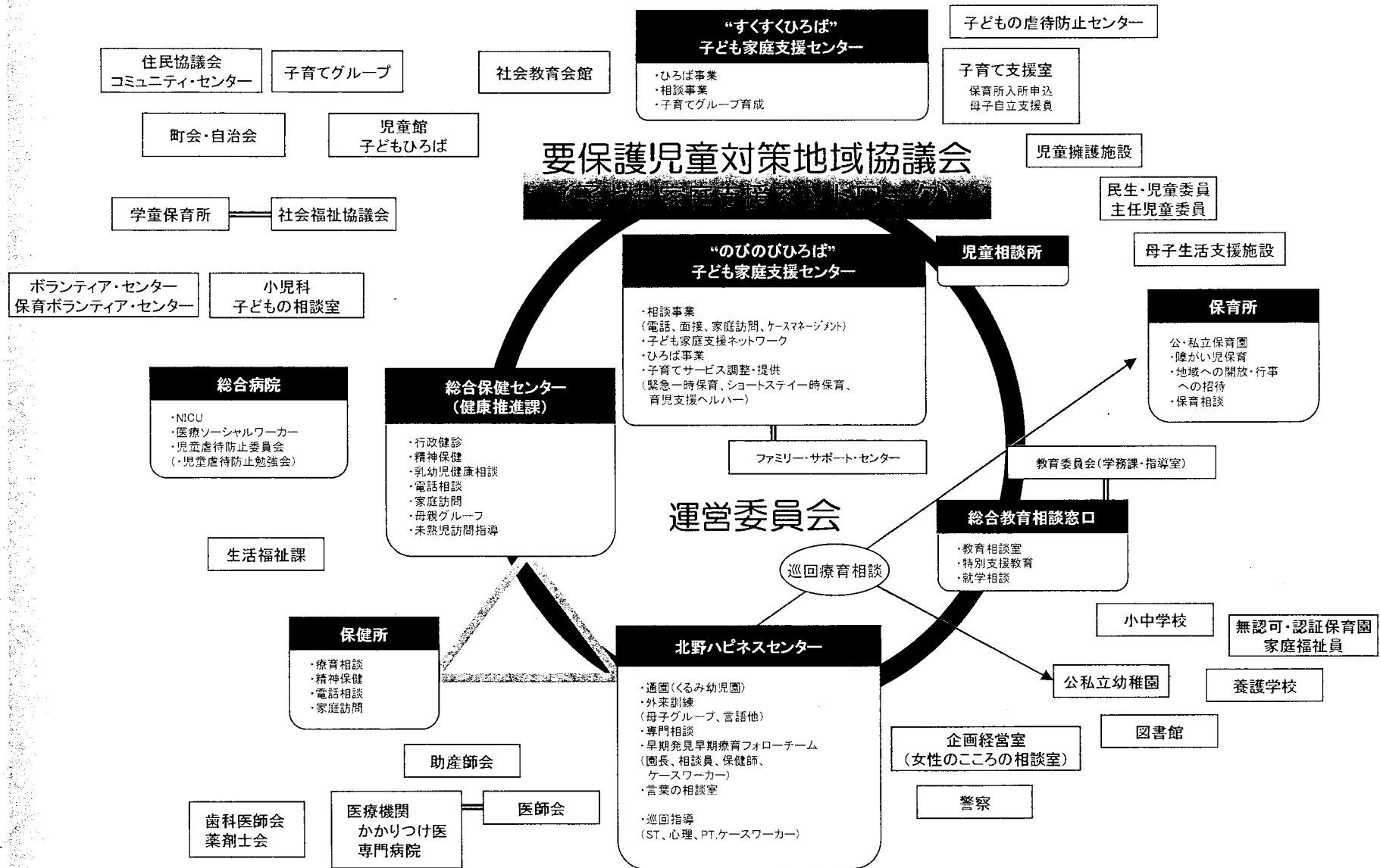
まずは子ども家庭支援センターに連絡
(要保護児童対策地域協議会調整機関)




地域の機関

児童相談所・子ども家庭支援センター・
総合保健センター・保健所・病院・医院・医師会
福祉事務所・保育園・幼稚園・小中学校・
高等学校・教育委員会・警察・療育センター・
社会教育会館・児童館・社会福祉協議会・
住民協議会・民生児童委員・養護施設・
子どもの虐待防止センターなどなど

三鷹市における子ども家庭支援に関わる社会資源とネットワーク



- 
- 地域の各機関のもつ役割や機能を知る。
(サービスの内容、対象年齢、条件、
担当者、など)




個(一つの機関)の援助から 子ども家庭支援ネットワークの援助へ

子どもと家庭を取り巻く問題は多様。些細なもの背景には深刻な問題が隠されている場合が多い。

子どもと家庭の状況を

- 身体機能的要因
- 精神心理的要因
- 社会家庭的要因

3つの視点から捉える ⇒ 福祉・保健・医療・教育・司法
の子ども家庭支援ネットワークで具体的援助を提供することが重要。



インテーク(ニーズの発見と把握)



スタッフミーティング(職場内で情報の共有と方向性、緊急性、
重症度の確認)



アセスメント(ニーズの分析)



支援計画の検討・作成



支援の実施・介入・調整



支援計画の検証・評価(モニタリング)



再アセスメント



支援

1 身近な支援

2 専門的・広域的支援

福祉・保健・医療・教育・司法（警察・裁判所）

★ ネットワークの中で私（機関）の
役割を整理する



子どもや親へかかわる 職員としての心構え

基本姿勢

相手の話にしっかりと耳を傾け、誠実に聴く

- 話してみようという気持ちを受け止める。
- 誰がどのように困っているのかを念頭に置く
- 回答を用意したり、行動を非難したり、指示的に行動を促さない。
- 私の価値観・倫理観で相手を判断・評価しない

あるがままの姿や気持ちを受け止める姿勢が大切



アウトリーチ

支援を必要としている子ども家庭にかかわるには
こちらから寄り添っていくことが大切
(特に孤立している家庭への援助)

- 申請主義から御用聞きに
- 何もない時から関係づくり(予防)



私たちが出会う人(子ども)

尊重すること

どの人も個人の心とからだの歴史・時代・文化・社会の影響を多かれ少なかれうけている。私たちも同じ。

互いに尊重しながらどのようなかかわり方が最良かを常に全身で受けとめ考える。
(聴く)(あるがまま受け止める)

★ 主役は子どもということを忘れずに